

帝京大理工学部（宇都宮市豊郷台1丁目）が開発を進めている超小型人工衛星の愛称が「おおるり」に決まり、10日の学内会議で承認された。

一般から応募があつた1088件の中から5月に選考委員会で8候補に絞り、最終投票を受け付けた結果、最多得票だつた。半数以上がおおるりに集まつた。

県鳥であるおおるりの名称には、本県から宇宙へ飛び立つという思いや、宇宙からの通信の電波を美しい鳴き声に例える意味が込められている。

帝京大の人工衛星

愛称は「おおるり」

人工衛星は、理工学部の学生らが開発を進めており、21年度中に打ち上げられる宇宙航空研究開発機構（JAXA）のイプシロンロケットに搭載されることが決まっている。7月末までに機体を完成させる予定。

県鳥の名背負い 宇宙へ飛び立つ

開発の責任者を務める河村政昭^{あき}准教授（42）は「かわいらしく、みんなに親しんでもらえる愛称が付いた。今後、機体の開発はもちろん、多くの県民を巻き込んで盛り上げていきたい」と意気込んだ。（藤井達哉^{ふじいたつや}）